

# 甲南Today

2009 DEC. NO. 35

甲友のリレーションで、未来を紡ぐ

甲南Today No.35

2009年12月20日発行 [発行] 甲南学園広報部 〒658-8501 神戸市東灘区岡本8丁目9-1 TEL 078-431-4341 (代)

あふれる情熱と冷静な思考で、  
将来は途上国支援の最前線へ。



「真の教育とは、人格の修養と健康の増進を重んじ、個性を尊重して各人の天賦の才能を引き出すことである」と提唱した、甲南学園創立者平生凱三郎。そんな平生の想いを込め、今、甲南学園で光り輝いている学生、生徒をご紹介します。

## マネジメント創造学部 1年次 吹留 有依さん

HIVの予防啓蒙活動だけではなく、  
これからの大学生活でもっといろいろな問題に眼を向けていきたい。

「行動力では、誰にも負けない」。マネジメント創造学部1年次生の吹留さんは、そう自分を語る。「今取り組んでいるのが、HIVの予防啓蒙活動。神戸市の保健所に単独で出向き、HIVに関するボランティア活動をしたいと直談判したのが始まりです」。日本人はHIVに対して無関心すぎると、吹留さんは指摘する。「自分は大丈夫ではなく、もっと身近な問題であることに気づいてほしいんです。12月の世界エイズデーには、学部の仲間を巻き込んで、気軽に参加できてHIVへの理解も深まる、お祭りスタイルのイベントを企画しました」。

そもそも、彼女がHIVに関心を持ったのは、高校時代、オーストラリアへの留学時。HIVの予防啓蒙活動を行っていた南アフリカ出身のホストファミリーの影響が大きい。「発展途上国をはじめ、世界には1日1ドル以下で生活している人々が多いことも知り、あまりに恵まれている自分の境遇に気づいたんです。だからこそ、自分はこうなりたい、社会でこんなことをしたいと、しっかりと目標と使命を持って生きるべきだと感じました」。

そんな吹留さんは、将来国際公務員として途上国支援の最前線に立つことを夢見る。この夏には、国連大学が開催するグローバルセミナーにも参加した。全国でわずか50名しか受講できない、将来国際機関で働きたい人がこぞって参加を熱望するセミナーだ。「当たって砕ける」の気持ちで挑戦したら、道が開けた。「\*CUBEは夢や情熱を後押ししてくださる先生ばかりで、相談したら、選考のレポートを徹底的に指導してくださいました」。セミナー中は、世界の貧困問題について、戦争やテロについて、同じ目標を持つ仲間と毎日夜中まで語り合った。自分には、情熱がある、行動力もある。でも、それだけでは、世界にあふれる無数の問題を解決できない。セミナーで密度の濃い日々を過ごすなか、次なるテーマも見えてきた。「冷静な思考力をつける。それが、私のこれからの課題です」。彼女は、CUBEの新しい学びと甲南らしい、バランス感覚を備え、オンラインワンの国際人をめざす。

\*西宮キャンパス・マネジメント創造学部の愛称

〈特集1〉 〈特集2〉 〈特集3〉

個性を生かした活動で成長する甲南大学生たち  
スポーツを通じて成長する甲南アスリートたち  
世界で活躍できる人物を育てる甲南の教育



IT's KONAN STYLE  
神戸コレクション エグゼクティブプロデューサー

高田 恵太郎氏

甲南大学が映画のロケ地に!?

自分を、家族を、まわりを  
元気にする甲南OGたち

こちら甲南特搜部

食堂特集ごはんですよ!!



インターネットで甲南へ

<http://www.konan-u.ac.jp>

携帯電話で甲南へ



甲南学園  
創立90周年  
記念事業

## 平生鈞三郎日記 翻刻・出版記念シリーズ

すでに本誌でお伝えしておりますとおり、甲南学園創立者 平生鈞三郎の日記は、ただ今出版準備を進めている最中です。出版までの間、巻頭ページにて平生鈞三郎及びその日記の魅力をさまざまな視点からご紹介しております。今回は、日記の中からある歴史的的事件に関する描写を抜粋してご披露いたします。この内容からも平生の人格がいかに潔癖であったかがうかがえます。



廃墟となったヘルマン屋敷

この写真は神戸市東灘区にお住まいの  
鯉田信生さんからご提供いただきました。

甲南大学の近く、六甲山の麓に、ヘルマン屋敷があった。それは戦災で廃屋になっていたから子供たちの絶好の探検場であったようであるが、昭和44年に取り壊されてマンションが建ち、昔の面影はない。かつてこの屋敷はヴィクトール・ヘルマン、ドイツ電気会社シーメンス東京支店長の邸宅であった。彼は「西本願寺法主光瑞氏が建設せる二楽荘の下に在る山上に宏壮にして輪奐の美を極めたる高度に棲み、豪奢を極め、常に自動車を駆りて揚々として他を睥睨するの概」(2月4日)があった。その彼が事件で収監される。ちなみに、財政に窮していた西本願寺は当時既に「二楽荘の来館者から一人拾五銭を徴し」「二楽煎餅」を供するといった状況にあった。

シーメンス社が電気器具の売り込みで海軍上層部にくい込み賄賂を渡したという衝撃的事実がドイツで暴露され、それを外電が伝え、1月23日に国会で明らかにされた。このニュースに、日清、日露両戦役で勝利した日本の軍隊を心から誇らし

く思っていた平生は強いショックを受ける。「帝国軍人は其清廉潔白の点に於て世界に冠たりと自負せし事は昔の夢にして、今や武臣 銭を呑み外国会社より収賄して赤恥を外国法廷に曝す至る。…我國軍人の腐敗は膏肓に入れる」ものあり。外国の法廷で「赤恥」をかせた軍人は「何の面目あつて国民に見えん、唯一死あるのみ」(1月23日)。

この事件に憤りを覚えながらも平生はその原因を彼なりに分析する。西洋人は既に「物質的慾望に幻惑させられて道義の觀念を喪失」して、いて、「獣慾の奴隷」になっている。それに対して日本は物質文明では西洋文明に劣っているが、精神的に墮落しなければ西洋を凌駕することも可能である。だが、物質的慾望の誘惑は避けがたく、帝国軍人までも金銭のため外人に買収せられる。まさに「長大息」のきわみである(2月4日)。

平生から見ればシーメンス事件に絡んで登場する人物は皆物欲に目がくらんでいるのだが、この事件が政界を揺るがす大疑獄事件へと発展する。これに対する政府の対応は鈍い。業を煮やした平生は、薩摩出身で「海軍収賄の元凶」である山本総理に対し、其事実を公表して自ら辞任せよと迫る(2月10日)。そのうちに、贈収賄問題は巡洋戦艦金剛の受注がらみで海軍とヴィカーズ社(イギリス)との関係へと発展する。こうなると世間も、当時憲政擁護や営業税などの廃税論議で沸騰していただけに、一層大騒ぎとなる。「近時、新聞紙の

平生日記の面白さは、東京海上にまつわる話題から日本の政治・経済や教育、さらに世界へと広がり、また私生活の細部からさまざまな社会事象に及び、これらをよくもこれほどと思えるほど見事に活写していることにある。平生日記は大正2年10月7日から始まっているが、3年1月23日にはシーメンス社と海軍が絡む贈収賄問題が表沙汰になっている。平生の目からこの事件を再現してみよう。

報ずる記事は海軍収賄事件にあらざれば、西本願寺財政案乱問題のみ(2月20日)。これに苛立つ政府は新聞の弾圧に走る。発売禁止となる新聞も出たから、メディアは一層激越となる。平生はこの新聞弾圧案は政府には逆効果しか生まないと見ていた。発売禁止は「寧ろ彼をして名をなさしめ、其販路を拡張せしむるに均し」(3月2日)。策に窮した政府は内閣改造を行い、さらには予算がらみで陸軍には増資を約束し、海軍には「廓清」を誓約させるなどして沈静化に努めたが、貴族院で予算案が否決され(3月10日)、結局、山本内閣は総辞職した。

しかし話はそれで終わらない。この疑獄事件は更に経済界をも毒していた。金剛受注で賄賂を贈ったのは「実業社会に絶大の勢力を有し、群小実業家をして其前に跪座」させるほどの権威をもっていた三井物産であった。その物産が「国民として唾棄すべき陋劣なる手段」で会社の利益を計るうとしたのである。それはまさに「恥すべき行為」であった(4月25日)。

国を挙げて「物欲」に目がくらみ、進行する腐敗は「膏肓」に到っていることを白日のもとに曝したのがこの海軍贈収賄事件であった。日本はこの直後第2次大戦に参戦し、国民はこの「海軍の恥辱」とも言うべき事件を海軍の活躍で忘れられるが、肝心の「廓清」は何らなされることはなかったのである。

## 「シーメンス事件」に見る、平生鈞三郎の正義と「恥」。

経済学部 教授  
藤本 建夫

平日日記の魅力に迫る！

裏表紙

ONLY ONE ～個性を力へ～ VOI.6

18 甲南学園の歴史と文化をつくった人々「最終回」

25 甲南フォーラム

15 自分を、家族を、まわりを元気にする甲南OGたち  
しなやかにたくましく生きる女性たち

23 食堂特集ごはんですよ!!

13 なるほど！甲南アカデミア  
「政策」から、「まちづくり」から、  
環境問題の解決に挑む。  
法学部 久保 はるか 准教授

22 甲南大学が映画のロケ地に!?  
こちら甲南特搜部  
みなさまから寄せられた疑問を徹底調査！

11 IT'S KONAN STYLE  
「人を楽しませること」。  
そのことばかりを考えていました。  
ビジネスも恋愛も同じですから。  
株式会社アイグリップ 代表取締役・  
神戸コレクション エグゼクティブプロデューサー  
株式会社ぜんまい 代表取締役  
高田 恵太郎 氏

19 高・中 TOPICS  
大学進学その先を見据えた、  
甲南学園の中高一貫教育。  
21 フランス甲南学園トゥレーヌだより  
おもしろくって短すぎ!?  
フランスの高校との交換留学  
(受入れ編)

7 (特集3) 世界で活躍できる人物を育てる甲南の教育  
国際交流センターの取り組み  
国際言語文化センターの取り組み

5 (特集2) スポーツを通じて成長する甲南アスリートたち

3 (特集1) 個性を生かした活動で成長する甲南大学生たち

2 WHAT'S NEW KONAN  
平日日記の魅力に迫る！「シーメンス事件」に見る、平生鈞三郎の正義と「恥」。

甲南 Today  
NO.35 2009 DEC.



「甲南の秋冬」撮影・柚実  
http://www.yoshiyuzumi.com/

【表紙の絵】西井 義晃 画

「岡本キャンパス正門」

西井 義晃さん プロフィール 1961年甲南大学経済学部卒業 元自由美術会員

右記のURLで作品集をご覧ください http://webgarou.net

# さまざまなフィールドで活躍する学生たち

甲南大学生たちは、講義や課外活動だけでなく、学内外でさまざまな活動を行ない成長しています。今回の特集ページは、その中からボランティア等各々の個性を生かした特色ある活動をご紹介します。



映画祭開催記念ガラ・パーティーの華やかなひとコマ。



経営学部 EBA総合コース・4年次  
藤田 みどりさん

## 映画祭に参加した学生たちのレポート

びゲスト・アテンド(付き添い・接遇)を務めました。ヨーロッパの各国から訪れるゲストを接遇するには高度な語学力はもちろん、コミュニケーション力等さまざまな能力が要求されます。ボランティアに取り組んだのは、留学経験のある学生たち。果たして、どのような経験を積んだのでしょうか？



経営学部EBA総合コース・4年次  
春名 宏美さん  
アテンドしたゲスト  
ヴァレンタス・アスキニス氏、ユラーテ・レイカイテ氏(夫妻)  
(アニメーション・エドゥケーター/リアニア)

アスキニス夫妻と春名さんイラストは春名さんのため描き下ろしてくださった作品です。

## 私

は、残念ながら予定が合わず、映画祭本番のボランティアはできなかったのですが、映画祭事務局の仕事もさせていただきました。華やかではないですが、責任のある仕事で、学ぶことは多かったですね。たくさんのボランティア希望者と連絡のやり取りをしたのですが、行き違いや説明不足がないよう慎重に慎重を期して仕事に当たりました。国際的なイベントでボランティアを経験し、今後は、EBAで学んだこと、自分の得意なことを生かして世界各国と日本の距離を縮めていくような活動をしたと思います。人種やことばの違いを超えてみんなが気持ちを共有できれば最高ですよ。

## 大阪ヨーロッパ映画祭におけるボランティア活動

大阪ヨーロッパ映画祭は、映画を通じ、大阪におけるヨーロッパ文化の普及と相互の友好親善の進展に貢献することを目的とするイベントで、毎年日本未公開のヨーロッパ作品を上映するとともに、著名な監督や俳優など多彩なゲストを迎えて交流を図り、映画ファンをはじめ多くの方々に親しまれています。本年度16回目を迎えたこの映画祭において、甲南大学生が、大学でのボランティアの募集およ



春名さんは各ボランティアへの連絡、ゲストアテンド、パーティーの受付で大活躍でした！

## 私

がアテンドを担当したパナイティス氏は、ローナ・ブラウン氏(女優/イギリス)等と非常に仲が良く、気がつけば3人のアテンドをしているときもありました(笑)。記者会見で突然プロの通訳の方からパトナツチされたり、忙しさのあまり終電を逃したりしましたが、おかげでギリシャ人とルーマニア人の友人ができ、喜んでいまして。それに、たくさんの映画関係者の方からお話を聞いたことは大いに勉強になりました。この機会でないとううことができない人ばかりでしょうから。ペジタリアンの方と食事をする際に場所やメニュー選びに苦労したことも思い出です(笑)。いろいろなことに気を遣った今回の経験を就職活動にも生かしていきたいです。またこの映画祭に参加できればいいですね！

文学部・4年次  
吉武 香さん  
アテンドしたゲスト  
アレクサンドラ・グラマトケ氏  
(映画監督/ドイツ)



## 私

はドイツへの留学経験があることが、ドイツ人の映画監督のアテンドを担当しました。日本ではドイツ語を使うことがなかなかないので、とても充実した時間でした。ゲストの母国語を話すことで、すぐに打ち解けることができましたし、最後には「香がドイツ語を話せるから、安心してきたわ」と言ってもらえました。しかし、まだまだ勉強不足なこともあり、通訳などで苦労したこともありました。また、日本の魅力やオリジナリティを海外に伝えられるようドイツ語だけでなく文化についても勉強したいと思っています！

経済学部EBA総合コース・3年次  
辰巳 裕紀さん  
アテンドしたゲスト  
パナイティス・エヴァンゲリス氏  
(翻訳者・脚本家・作家・監督/ギリシャ)



## ゲ

スト・アテンドというとても責任ある仕事を任せられ、大きなやりがいを感じました。また、私にとってはこれまで身近でなかったヨーロッパの映画や文化に接することができたことで、視野が広がり、大きく成長できたと思います。しかし、ゲストを観光にお連れしたときに、自分が意外と関西についての知識がなかったということが反省点ですね。来年もぜひこの映画祭のお手伝いがしたいですし、今回の経験を糧に、海外でのボランティアにも参加できればと思います。

経済学部EBA総合コース・3年次  
山本 理沙子さん  
アテンドしたゲスト  
コスミン・セレス氏  
(俳優/ルーマニア)



## 私

は、残念ながら予定が合わず、映画祭本番のボランティアはできなかったのですが、映画祭事務局の仕事もさせていただきました。華やかではないですが、責任のある仕事で、学ぶことは多かったですね。たくさんのボランティア希望者と連絡のやり取りをしたのですが、行き違いや説明不足がないよう慎重に慎重を期して仕事に当たりました。国際的なイベントでボランティアを経験し、今後は、EBAで学んだこと、自分の得意なことを生かして世界各国と日本の距離を縮めていくような活動をしたと思います。人種やことばの違いを超えてみんなが気持ちを共有できれば最高ですよ。

大阪ヨーロッパ映画祭事務局  
ゲストコーディネーター  
津田 ともよ氏

ゲスト・アテンドという非常に責任のある業務をトラブルなくやり遂げていただき、非常に感謝しております。1年海外で学習するというプログラムを経験されている方もいて、語学が堪能なのはもちろん、こちらの方で細かい指示をしなくても各自で動く力とものをあやふやにしない責任感があり、信頼ができますし非常に一緒に仕事ができたと感じています。また、みなさん全く物怖じせずゲストと接していて、正直びっくりしております。ゲストの方からも信頼されてましたし、ゲストが帰国される時アテンドとの別れを惜しんでいる様子を見ると今回の滞在がかなり充実していたことがわかりました。就職活動や授業の忙しい中、貴重なお時間を当映画祭に費やしていただき、ありがとうございました。

甲南大学生ボランティアチームをご指導いただいた同映画祭の事務局の方から、コメントをいただいております。

## WEBASによる岡本地区清掃活動

10月18日(日)10~12時、甲南大学生30名および留学生5名が、岡本商店街等地域の方のご協力を得て、岡本地区4箇所清掃活動を行いました。活動の主体は「WEBAS」。「WEBAS」は、EBA総合コース6期生が留学中に経験したことをたくさんの人たちと共有し、ともに視野を広げ成長していきたいという思いから立ち上げた「人財」支援団体で、甲南大学生および留学生を対象としています。



今回は、一般学生と留学生、地域の方々との交流を目的として清掃活動が企画されました。なぜ清掃活動が選ばれたのでしょうか?「留学先のアメリカでボランティアに取り組んだとき、人との交流には「体験」を共有することが最も大切であるということを感じたからです。岡本地区を清掃することで、大学周辺の地域をよく知ることができますし、今回のように近隣にお住まいの方が参加して下さることで、地域と大学との交流にもなります。それに、普段甲南の学生たちが迷惑をかけることもあるかと思うので、そのお詫びの意味も兼ねているのです」とWEBAS代表の黒田将平さん(経営学部)と清掃活動代表の藤山晋太郎さん(経営学部)、森量さん(経済学部)(3名ともEBA総合コース3年次生)は語ってくださいました。この清掃に参加した地域の方から、「真剣に清掃してくれて、甲南大学のイメージがさらに良くなったよ」とのうれしいお声も頂戴しました。

## OBFによる就職活動支援

「OBF」とは、4年次生有志による就職活動支援を目的として活動する団体。たくさんの卒業生および大学のキャリアセンターの支援により就職活動を乗り越えた学生たちが、「恩返ししたい」と自発的に立ち上げたもので、「Of the student, By the student, For the student」という理念が命名の由来です。年3回の合宿を中心として、自己分析、エントリーシート作成、筆記試験・面接対策などの指導を就職活動中の後輩たちに行なっています。OBF代表の平岡直人さん(法学部4年次)は、活動を通じて感じた思いをこう語ります。「私は銀行に内定をいただいたのですが、後輩たちの希望職種はさまざま。また、考え方や価値観は十人十色で、こちらの思いを一方的にぶつけていく指導法は通用しません。各々の良いところを見極め、相手を認めたくえと一緒に前に進んでいく感じ。自分も今改めて成長させてもらっている気がしますね。」



なお、本学キャリアセンターは、2010年版週刊朝日進学MOOK「大学ランキング」において、キャリア教育に対する学生の満足度(親身に就職指導:1位、資料や種類が豊富:1位、セミナー、講習会:2位)で高い評価を得ています。

このほか、24時間テレビ「愛は地球を救う」におけるチャリティー募金活動など、実にたくさんの甲南大学生たちがその個性を生かした活動を展開し、大きく成長しています。また、甲南大学では、「何らかの理由で大学生活に不自由を感じている学生を友人・上級生として支援する」ボランティア活動などを推進、バックアップする「ピアサポート制度」を来年度より実施いたします。それらの模様は改めて本誌でご紹介させていただく予定です。ご期待ください。

共感！スポーツの楽しみと仲間がいるよろこび。

「数々の輝かしい戦績を残してきたみなさんですが、まずはそれぞれの競技の魅力についてお話しください。」

**甘利** 弓道の魅力は矢が的にあたったら勝ち外れば負け。勝ち負けに人の判断が入らないから、「次はあたるようにがんばろう」と、素直に思えるのが僕に合ってますね。

**山本** わかる！私がしているライフル射撃も同じ！集中力を失ったり精神状態が不安定だと的を外してしまう。つまり、対戦相手は自分自身の心。そういうところが私にとって魅力。福本くんはどんな気持ちでテニスを続けているの？

**福本** チームを思っただけでプレイしているときが大好きです。テニスって個人競技に思われがちですが、でも、実は試合のほとんどは団体戦だから、チームの気持ちをひとつにしないとかなかなか勝つのが難しいんですよ。

**甘利・山本** おお！さすが！シングルス1をまかされるだけのことはある！  
**福本** いやいや(笑)。だから、1人で戦う競技だけじゃなく、1人でも仲間がいるために熱くなれるところが僕の場合テニスへのモチベーションになっていると思います。

**甘利** 自分のミスで試合に負けたりすると、申し訳ないし、悔しいよね。  
**福本** そうですね。でも逆に、自分が負けても仲間が取り返してくれたりするから、心強さも感じます。

**山本** なるほど。私はやっぱり個人戦が好きだけど、仲間がいること、仲間を思う気持ちは素晴らしいと思う！



※一般的なテニスの団体戦はダブルス2、シングルス1、シングルス2、シングルス3の4人でプレイし、ポイントを獲得。そのポイント数で勝敗を決めます。ポイントが同数の場合、シングルス1の試合の結果で勝敗を決定することもあります。そのため、団体戦最後の試合を担当し、勝敗の鍵を握るシングルス1には、実力のある選手が選ばれることが多いです。(大会やトーナメントによりますが、ルールや試合状況異なる場合もあります)

試合で自分がピンチのときに仲間が声をからして応援してくれたことがうれしかった。緊張や孤独感が勇気に変わっていくことが体感できたよ。

**山本** 私は人から頼られることに喜びを感じるんだけど、2人の話を聞いて、これからもっと積極的に後輩の指導にあたるようにしようと思う。成功の喜びを知ってほしいから。小さなことでもたくさん褒めてあげると、大きな成功につながると思うんだ。よく考えたら、私たちが成長できたのって、まわりの人がいてくれるっていうことが大きいよね。

ひとまわり大きくなれた自分。これから自分には何ができるか？

「みなさんがまわりの人に助けられ、またご自分も努力して精神面でも強くなられたということがよく分かりました。では、逆に、自分の大切な人が悩み苦しんでいたらいっしょにあげたいですか？」

**甘利** 相手の気が済むまで愚痴や相談に付き合います。あと、笑顔が戻るように一緒に遊んで思いっきり騒いだりします！  
**山本** 何を置いても会いに行きます。ゆっくり時間をかけて話を聞きますね。

**福本** その人の好きなこととことん付き合っ、笑顔になつてもらいたいです。  
「では、最後に、みなさんの将来の目標や、これからどんな人になりたいかについてお話しください。」

**山本** 私はライフル射撃でも、就職する会社でも、他人から目標とされる人になりたいです。そのためには、練習や勉強などを怠ってはいけないと思います。

**甘利** 僕は、自分を



スポーツが、まわりの人たちが、自分を成長させてくれた。

「クラブ活動を通じて、自分自身の成長や変化について何か感じたことはありますか？」

**山本** 私、実は引っこ込み思考だったんです。

**甘利・福本** えっ？！  
**山本** 信じられない？(笑)人の目を気にしすぎていて前に踏み出せないというか…。それが試合経験を重ねるごとに、180度変わって堂々として積極的な性格になりました。しかも、観客が多いとさらにやる気がアップします！

**甘利** プレッシュヤーとか感じないの？  
**山本** 全然ない。むしろ「勝つて！」と期待されると逆に燃えるくらい。

**福本** それはすごい成長ぶりですね。  
**甘利** 僕は、厳しい練習のおかげでかなり精神的に強くなった。1人の調子が悪くて的にあたらないと全部員の連帯責任になるんだよね。みんなの前で弓を引かれて、「的にあたれば練習終了。外したら続行！」って。自分が罰を受けるのは構わないけど、僕のせいで他の部員がしんどい思いをするのはすごくいやだった。でも、こういう経験があったおかげで集中力がついた！いつも冷静さを保てるようになって、就職活動で役に立ったよ。

**福本** 僕も人見知りかひどくてあがり性だったのですが、克服できました。あと、テニス部もいい意味で上下関係がとてもしっかりしています。だから、礼儀や挨拶の大切さを教わることができたのは良かったですね。

「試合で勝つこと以外にスポーツを通して感じてきた喜びがあれば教えてください。」  
**福本** 落ち込んでいたときに先輩が励ましてくれることですね。僕もそういう人になろうと思えます。

**甘利** 仲間の大切さを痛感するよね。僕は、支えてきてくれた人たちの何倍もの多くの人々の支えになりたいと思っています。これから航空自衛隊のパイロットとして働くことになるのですが、災害現場での救助活動や救急運搬など、人命救助に関わっていきたくて、人を守り、助ける活動を通して、社会に貢献したいですね。

**福本** 僕は周りに思いやりや気配りができる人になりたいです。残り3年間の学生生活では、テニスコーチのボランティアなどにチャレンジしながら、具体的な将来の目標を見つけようと思えます。



**「ピンチはチャンス」**  
試合中、ラケットのガットが切れる。よくあることだが、福本くんが経験したのは、予備のラケットがない状況だった。「仲間のラケットを使って試合続行。逆に吹っ切れてリラックスでき、自分の実力を発揮できました」。ピンチをチャンスに変えることができたと。この経験は、福本くんにとって、スポーツだけでなく人生にもつながるエピソードになるだろう。



戦績 2009年6月 関西学生春季テニスーナメントベスト4(個人)

We are KONAN ATHLETES!  
Yes, we have a SPORTSMANSHIP!

「こころ」と「からだ」を育てるスポーツ

甲南学園の創立者平生汎三郎は、「スポーツマンシップが人間性を育む」との考えのもと、体育や課外活動におけるスポーツを“健全な身体づくりの手段”としてだけでなく、“人格教育の一環”ととらえていました。練習や試合においてフェアな精神とたゆまず努力する尊さを体得させることを重要視していたのです。今回は、体育会クラブに所属し、最近の試合においてめざましい戦績をあげた甲南アスリートたち取材し、それぞれの人間的成長にクローズ・アップしました。

甘利 齊久さん

経済学部4年次 弓道部主将  
優しいな顔立ちながら、非常にしっかりした性格。さすが主将。



戦績 2008年1月 三十三間堂大の全国大会 優勝  
2008年5月 住吉大社全国弓道連の大会 団体準優勝、個人4位  
2009年6月 関西学生選手権 準優勝(個人・団体ともに)  
2009年9月 関西学生弓道リーグ 2位



**「壁は乗り越えるもの」**  
甘利くんは大きな壁に当たったとき、思い出す言葉がある。それは「弓道は竹と同じ」という高校時代の監督の言葉だ。「竹は堅い節を越えて伸び、節が多いほど大きく育つ。弓道も困難を突破した数だけ上達する。そして、節の数が多い竹は折れにくい。弓道も練習を重ねた数だけ強い心が育つ」。その言葉を信じて、日々練習に打ち込んだ甘利くんは、知らない間に困難を乗り越えていた。



**「目標は、オリンピック」**  
山本さんはライフル射撃を恋人みたいな存在だと言った。「女性って恋人に入らなれようと、キレイになろうと一生懸命になるでしょ。私が練習をするのも、ライフル射撃が大好きだから。自分磨きみたいなものです」と語る山本さん。さらに「おばあちゃんになつても続けて、いつかオリンピックをめざします」と言う山本さんにとって、ライフル射撃は生涯のパートナーなのだ。



戦績 2007年9月 全関西学生ライフル射撃選手権大会 優勝  
2009年9月 第15回秋季全関西女子学生ライフル射撃選手権大会 優勝(団体)  
2009年9月 新潟国体 5位

福本 達也さん

経済学部1年次 硬式庭球部  
やんちゃそうなルックスとは正反対、穏やかで落ち着いた考えの持ち主。

# アジアに触れて、アジアを学ぶ。 国際交流センターの新しい学び 「エリアスタディーズ」。

国際交流センターでは、アジアとの交流を強化する方針のもと、新しい短期プログラム「エリアスタディーズ」を創設。2010年2月より、第1回目のプログラムを台湾で実施します。プログラムの創設から携わっている杉田俊明・国際交流センター副所長が、「エリアスタディーズ」の目的や魅力、今後の展望について語ります。

## What's 国際交流センター？

甲南大学の国際交流に関する業務を担当する組織。海外で学びたい学生への留学相談やアドバイスをを行うほか、甲南生と留学生が自由に交流できるプログラムを提供しています。留学に興味がある学生や、留学生と話してみたい学生は「あじさいの一むし(3号館2階)に気軽に足を運んでください。」

新たなターゲット、「アジア」。なぜアジアなのか？

**現** 在、中国やインドを中心にアジア経済は大きな躍進を遂げています。日本経済にとっても、アジアは重要な市場。なかでも、中国、香港、台湾、シンガポールといった中国語圏の国・地域は、日本製品の輸出先・日本企業の対外進出先として全体の30%以上を占めるなど、日本と非常に深い関係にあります。21世紀は「中国の時代」と言われるように、中国を筆頭にアジア経済はさらなる成長が見込まれています。創立以来、国際人の育成を建学の理念として掲げてきた甲南大学としても、中国をはじめとするアジア諸国の言語や文化に精通した人材を育てていくことは不可欠であるという訳です。

そこで、国際交流センターでは、アジア圏の大学との交流をさらに拡大する方針を打ち出し、関係の強化に着手。台湾の大学や北京の大学などと提携を結んだほか、香港やシンガポールの大学とも提携の準備を進めています。また、その方針のもと、アジアとの交流を推進するための新プログラム「エリアスタディーズ」を創設。中国語圏を中心としたアジア諸国でバラエティに富んだ学びのメニューを通じて、学生がアジアに興味を持つきっかけを提供してまいります。

**第1回目の舞台は台湾。グローバルな考え方を学ぶ。**

**「**エリアスタディーズ」は、語学学習を主な目的とする従来の短期留学とは異なり、外国でさまざまな学びを体験することで、その国の文化や歴史に

対する学生の関心を高め、より本格的な、専門領域での留学につなげていくための入門的プログラムとなっています。プログラムに参加する学生は、1週間程度をプログラム実施国で過ごし、現地の大学において専門分野の講義を受けるほか、大手企業の訪問や現地学生との交流などを行う多彩な内容です。

第1回目は、2010年2月より台湾で実施し、経済学・経営学を専門分野に学びます。台湾は、ノートパソコンのシェア世界第1位のメーカー・エイサーなど、IT分野で世界をリードするグローバル企業が多数あり、経営者が非常にグローバルな考え方を持っています。また、台湾は香港、シンガポール、韓国とともにアジアでは日本に次ぐ経済発展国・地域なので、日本人にとってもなじみやすいことから、1回目としては最適な訪問先だと考えております。

**対象地域と専門分野を拡大し、さらに充実したプログラムへ。**

**「**国際交流センターでは、「エリアスタディーズ」をこれからの国際交流の1つの柱になるプログラムと位置づけ、第1回目をモデルケースに、今後は随時、対象地域を拡大してさらなる充実化を図ってまいります。北京や上海といった中国の都市部から、香港やシンガポール、韓国、タイ、インドなどアジア全域に徐々に広げ、年間を通して複数のプログラムを提供していくつもりです。長期的には、ア

甲南の国際交流はここが違う！

## +αの国際交流センターの取り組みを紹介！

甲南大学の国際交流の魅力は、多数の協定校や多彩な留学制度だけではありません。国際交流センターの教職員一人ひとりが、学内外で国際交流を推進していくために、さまざまな取り組みを行っています。このコーナーでは、国際交流センターの教職員が力を入れている取り組みを中心に、甲南国際交流の「+α」を紹介します。

### 国際交流フェスタ

留学生との交流会や留学相談をにぎやかなランチパーティー形式で。

“甲南生と留学生の交流活性化”や、“留学制度の周知”などを目的とした取り組み。昨年まで国際交流センター内で行われていた留学相談会+留学生とのティーパーティーを、スタッフの発案によりブラッシュアップ。学生の往来が多い3号館1Fロビーにて開催しました。また、写真・ポスターの展示やBGMなども工夫し、にぎやかな雰囲気づくりを心がけたことで、通りがかりに立ち寄る学生も増え、甲南生の参加者数は前年度の2倍以上!大きな反響がありました。



### 地域貢献

留学生が地域の活動をお手伝いし、地域の人々とふれあう。

国際交流センターでは、大学と地域とのふれあいを通じて、留学生と甲南生が成長する機会を促進しています。保育園の英語教室、西宮商工会議所主催の「酒蔵フェスタ」、地域のお祭りなどにおいて、留学生がボランティアとして、あるときは英語を生かし、あるときは自国の文化を紹介し、温かい交流の場を生み出しています。



### ジョイントセミナー

留学生と甲南生が同じクラスで学び交流を深める。

さまざまな分野で活躍する学内外の講師により、身近な時事問題等日本のことを英語で学ぶ授業です。留学生を対象とする内容ですが、甲南生も受講できます。学生同士の交流を促進するとともに、留学生と甲南生が同じクラスで、ディスカッションなども交えながら学ぶことで、お互いの価値観や考え方の違いを学び、国際的で広い視野を持てるという効果もあります。

### ホストファミリー制度

「家の中からの国際化」～地域と甲南をつなぐ架け橋として～

一般家庭に、留学生を家族の一員として9か月間(夏期プログラムの場合、6週間)住まわせていただく制度。甲南のホストファミリー制度は30年を超える歴史があります。これは、日本の大学でもトップクラスの伝統を誇り、甲南の国際交流の大きな特徴となっています。この制度により、甲南に来た留学生は、より日本の文化や習慣を深く学ぶことができ、人間的に大きく成長します。日本人のご家庭において留学生と一緒に暮らすということは、文化の違い等があり、いろいろと調整が必要ですが、それを乗り越え、本当の家族のようになる点がホストファミリー側にも大いなる魅力となっているようです。

**STEP 01 事前学習**  
第1回エリアスタディーズの流れ(台湾提携校コース)

**STEP 01 事前学習**  
留学に備えて  
現地事情などを学習。  
留学の準備として、本学の教員が事前指導を行います。留学先地域に関する説明を受けるほか、研究の手法や進め方などを学びます。なお、単位認定を希望する学生は、経営学に関するより専門的な講義を受けることとなります。

**STEP 02 現地学習**

**STEP 02 現地学習**  
現地の大学で講義を受講、企業訪問・見学も実施。  
台湾の台北市、台中市が訪問先。現地では、大学での講義、企業でのフィールドリサーチ(見学等)、文化や歴史に触れる社会学習、学生と交流を深める懇談会を行います。

**STEP 03 事後指導**

**STEP 03 事後指導**  
レポートや研究発表で留学の成果を発信。  
帰国後、本学において事後指導を実施。レポートの提出や研究発表、教員による研究指導などを行います。単位取得をめざす学生は別途単位評価に関わるレポートの提出(または定期試験の受験)が課されます。

**STEP 04 台湾を代表する企業を訪問**

**STEP 04 台湾を代表する企業を訪問**  
大手IT企業、大手自転車メーカー、大手海運企業など、台湾を代表する企業を複数訪問。会社や工場を見学するほか、経営者の方からお話を伺います。台湾企業がいかにグローバルな発想で世界市場において戦っているのかを、学生に肌で学んでもらうことがねらいです。

**STEP 05 台湾の文化や歴史に直接触れる**  
歴史博物館を見学するほか、市内観光見学などを行い、現地の歴史・文化・民俗を学びます。

**STEP 06 懇談会で現地の学生と交流**

**STEP 06 懇談会で現地の学生と交流**  
両大学において、現地の学生・教員との懇談会を開催。現地の学生と交流を深めます。国籍が異なる学生たちが交流を持ち、友人になることは、将来の大きな財産になります。

# “世界に通用する人物を育てる”ために



## 常に進化し続ける国際言語文化センター。



### 「改革」のキーワードとは？

前号甲南(Today No.34)でお伝えしたとおり、学内外から高い評価を受ける甲南の外国語教育。その外国語教育を担う国際言語文化センターは、設立15周年の節目を迎えた今、新たな改革に取り組んでいます。今号では同センターの所長を務める胡金定教授が、これからの甲南の外国語教育について語ります。

**学生の多様なニーズに応えるため、外国語教育の改革へ着手。**

国際言語文化センター(以下、言文センター)では、甲南の創立者・平生 鈞三郎が掲げた「世界に通用する紳士・淑女たれ」の精神を受け継ぎ、数々の先進的な外国語教育に取り組んできました。国際化が進む今、専門知識を外国語で表現できる語学力「使える外国語」を身につけることは、学生にとって大きな付加価値になります。言文センターは、これまでの取り組みに対する高い評価に満足せず、学生の外国語教育への多様なニーズに応えるべく、さらなる改革に着手していきます。

また同時に、外国語学習に対する学生の意欲を高め、コミュニケーション能力を向上させるための支援体制を構築。学生自治会とも連携しながら、有効性の高い学習支援策を実行していきます。具体的には、左のような4つの項目に重点的に取り組んでいく計画です。

- 言文センターを知る  
8つのキーワード
- 使える外国語を身につける
  - 「読む・書く・聞く・話す」を重視
  - 外国語教育の質の保証
  - コミュニケーション能力の向上
  - 学生の知的好奇心を喚起
  - 専門知識+外国語能力を養成
  - 外国語を楽しく学ぶ
  - 少人数教育

新たな外国語教育の方向性

カリキュラムポリシー(CP)の設定

これからの外国語教育および言語文化教育の指針

外国語学習支援体制の構築

01

外国語学習・海外語学講座に関するアンケート調査の実施

02

知的好奇心を喚起する外国語学習支援体制の整備

03

専門教育をサポートする「特別クラス」の創設

04

外国語を使ったボランティア活動の実施

聘された外国人研究者 観光や留学に来た個人旅行での外国人家族を対象に、学生がボランティア活動を行うことを奨励。観光案内や通訳・翻訳など、外国語を駆使してボランティア活動を行うことで、国際交流及び社会貢献の輪を学外にも広げていきます。

**私** は言文センターの所長に就任以来、教員が教育レベルを上げるために一丸となる雰囲気づくりに力を入れました。その成果もあり、言文センターの教員は、非常に意欲と熱意にあふれています。学生が目標を持って積極的に外国語学習に取り組んでいけるように、これからも言文センターの教職員全員で、外国語を学ぶ楽しさ「知の喜び」を学生に伝えていきたいと思えます。

**私** は言文センターの所長に就任以来、教員が教育レベルを上げるために一丸となる雰囲気づくりに力を入れました。その成果もあり、言文センターの教員は、非常に意欲と熱意にあふれています。学生が目標を持って積極的に外国語学習に取り組んでいけるように、これからも言文センターの教職員全員で、外国語を学ぶ楽しさ「知の喜び」を学生に伝えていきたいと思えます。

**私** は言文センターの所長に就任以来、教員が教育レベルを上げるために一丸となる雰囲気づくりに力を入れました。その成果もあり、言文センターの教員は、非常に意欲と熱意にあふれています。学生が目標を持って積極的に外国語学習に取り組んでいけるように、これからも言文センターの教職員全員で、外国語を学ぶ楽しさ「知の喜び」を学生に伝えていきたいと思えます。

**私** は言文センターの所長に就任以来、教員が教育レベルを上げるために一丸となる雰囲気づくりに力を入れました。その成果もあり、言文センターの教員は、非常に意欲と熱意にあふれています。学生が目標を持って積極的に外国語学習に取り組んでいけるように、これからも言文センターの教職員全員で、外国語を学ぶ楽しさ「知の喜び」を学生に伝えていきたいと思えます。

国際言語文化センター所長  
**胡金定** 教授  
1956年、中国福建省生まれ。廈門大学で日本語を専攻し、85年来日。甲南大学には96年に着任。2007年より、国際言語文化センター所長に就任。

てさせ、担当教員がその指導とサポートを行う体制を構築していきます。

**POINT 03** 専門教育をサポートするクラスや「読む・書く・聞く・話す」力をより一層強化するクラスの創設

学部との連携を進め、専門教育と関連した内容や文献を扱う外国語のクラスを設置。学部の専門知識と外国語能力の双方を身につけた学生を養成してまいります。すでに、経営学部のグローバルビジネスコース(GB)において実施しており、今後、他の学部とも連携を強化します。

さらに、より外国語を集中的に学習して「読む・書く・聞く・話す」4技能を強化したい学生のためのクラスを創設する予定です。

**POINT 04** 外国語を駆使したボランティア活動の実施

本学への交換留学生はもろろん、日本に招

**POINT 01** 外国語学習海外語学講座に関するアンケート調査の実施

学生のニーズや希望を正確に把握するため、1年次の学生全員にアンケート調査を実施。調査結果を詳細に分析し、学生のニーズを探るとともに、きめ細かい外国語学習プログラムとサポートを提供。多様なニーズに合わせた学生支援、短期留学プログラムである「海外語学講座」の強化、カリキュラム編成の改革などを行っていきます。

**POINT 02** 知的好奇心を喚起する外国語学習支援体制の整備

習得をめざす言語を使って、その国の文化・社会・生活習慣などを知ってもらい、学生その国に対する知的好奇心を喚起していきます。また、海外語学講座や長期留学に参加する学生に自主的にプランを立

### 授業 Report

言文センターでは、実際にどんな授業が行われているのでしょうか？  
吉田佳代講師の「基礎英語Ⅱ(A)」の様態をレポートします。

#### 学生への説明は英語中心

その名の通り英語を“基礎”から学ぶ授業ですが、吉田講師から学生たちへの説明や質問はまず英語で、その後日本語で行われます。これなら英語へ馴染むのも早くなりますし、聞き取れなかった部分は日本語で聞けるので安心ですね。

#### 工夫を凝らした授業スタイル

この日は、まず英語のビデオを観て、その後、ビデオの内容についての設問に答える授業でした。ビデオに登場するのはネイティブスピーカー。もちろん本格的な発音で、“基礎”といえどなかなか手強い模様。



#### コミュニケーションを重視している

設問について考えるのは個人個人ではありません。学生たちは、授業の最初に4名程度のグループに分けられ、一緒に考えます。グループで「ああでもない、こうでもない」と一生懸命考える学生の姿は非常に楽しそうでした。学生が設問を考えている間も、吉田講師はまめに教室をまわり、学生たちに話しかけていきます。1クラスが少人数編成なので、全員に目が行き届き、きめ細やかな指導が行われています。



第一線で活躍する卒業生に、ご自身の生き方についておうちががいのコーナー。今回は、国内最大級のファッションショー「神戸コレクション」を手がける高田恵太郎さんにインタビューします。



パンカラでブレイボーイ!?  
目立った、モテた、甲南時代。

私が通っていた私立の男子校は、大阪の商売人の息子さんたちが通う、いわゆるお坊ちゃん学校でした。同級生はおしゃれなファッションに身を包んだブレイボーイ揃い。自分もかっこよくなって女の子にモテたい

と、そんな下心もちょっとあつて高校時代から自然とファッションにのめりこんでいました。当時、アメリカからのインポートファッションは最先端。MADE IN USAのBDシャツや靴を買いに、神戸へわざわざ足を運んでいました。その頃は関西では神戸の元町の高架下でしか扱ってなかったの。神戸は異国の香りがしましたね。甲南大学へ進学したのも「神戸」が大きな理由でした。

大学では、自分で言うのもなんですが、ちょっとした有名人でした。だって、穏やかで平和な甲南大学に場違いな「学ランにゲタ」というパンカラックでしたから(笑)。所属していた少林寺拳法部が、学ランの着用が条件だったんです。そんな硬派なイメージがあるかと思えば、当時メンズファッション



©神戸コレクション制作委員会

「人を楽しませること。ばかりを考えていました。も恋愛も同じですから。」

「人を楽しませること。ビジネス」

ションブランドの代名詞だった「VAN」でバッチリ決めて、女の子と遊んだり…。また、何か新しいこと、面白いことを求めてダンスパーティを企画したり、とにかくおもろい毎日でした。おかげで「高田のまわりにはいつもかわいい女の子がおるなあ」なんて冷やかされるほどモテモテのキャンパスライフでしたよ(笑)。

憧れの「VAN」で刺激を受ける日々。しかし、長くは続かなかった。

大学4年間は部活と遊びに明け暮れる毎日でありながらも、自分なりに将来のビジョンはしっかりと考えていました。「自分にとってファッションあつてこそその人生、働くなら絶対にアパレル業界がいい。それも、めざすなら一流だ」と。そこでファッションのすべてを教えてくれた、VAN(株式会社ヴァンチャケット)にどうしても就職したくて大学3年からVANのショップでアルバイトを始めました。「入社するには社員さんとのネットワーク作りが大切だ!!」って。学生バイト時代はよく売る販売員でしたよ。そんなことを認められてか念願のVANに入社!どうしてVANだったかについていうと、VANは洋服だけじゃなくて、アメリカのライフスタイル・文化全てを日本に持ってきてくれた。音楽とかスポーツと

株式会社アイグリツ 代表取締役・神戸コレクションエグゼクティブプロデューサー  
株式会社ぜんまい 代表取締役

高田 恵太郎氏

1974年甲南大学法学部法学科卒業

Keitaro Takada

1974年甲南大学法学部法学科卒業後、株式会社ヴァンチャケットに入社。同社倒産後、スポーツメーカーへの転職を経て、神戸ファッションマーケティング部長として参加。その構想の一環として、2002年に神戸コレクション第1回目を開催。自分のしたいことを求めて独立し、神戸コレクションの企画会社、株式会社アイグリツを設立。さらに、神戸からファッションを中心とした情報発信事業を展開する、株式会社ぜんまいを設立。

日本にアイビーを広めた「VAN」

1960年代頃に一世を風靡したファッションブランド。アメリカ東海岸の大学生のファッション「アイビースタイル」を日本で広め、ファッションシーンの最先端を走り続けた。



か、グラフィックデザイナーとか。とにかくかっこよかったんです。

そんな充実した環境で働き、「オレがこの会社を守っていく」と骨を埋める覚悟をしていた4年目の春、思いもかけない倒産の凶報。新潟へ出張に行った帰りの夕刊に「VAN倒産」の文字があった衝撃は今でも忘れられません。残った社員で再建に奮闘しましたが、その甲斐もむなしく破産宣告を受け、事実上、本当の消滅。それから、VANでの経験を生かせればと一念発起し、スポーツメーカーに転職。当時は汗と根性だけのスポーツウェアに、ファッションブルさを吹き込むことに全力を尽くしました。

「新しいことが好き、人を楽しませたい」この気持ちこそ、仕事への原動力。

スポーツメーカー勤務のあと、神戸からファッション産業を拡大する「神戸ファッションマーケティング」のマーケティング部長として様々な事業に携わりました。

自分を育ててくれた神戸で、しかも自分の血であり肉となったファッションを通じて仕事。やりがいがありましたね。その事業のうちの一つが「神戸コレクション」です。今や大成功をおさめたといわれる秘訣は①20代のファッションが好きで女性だけにター

ゲットを絞り、②神戸のような地方から、全国に発信されるテレビ、雑誌、Webを巻き込み「メディアミックス」で広告展開する。など、いままでのスタイルとは全く違った新しいやり方の導入でした。こうやって振り返ってみるとほんとに自分は新しいこと、人をびっくりさせることが好きなんだということを実感します。そんなことを考えるのも、人を驚かせて注目を浴びたいからで、その根底にあるのは、やっぱりモテたいっていう気持ちかな(笑)。ところで、私は恋愛もビジネスも似たようなものだと思ってるんです。だって、女の子を振り向かせるにはどうすればいいかってことも、お客さんの興味をひきつけることも理屈は同じ、人を楽しませたいっていう気持ちでしょ。

高田流ビジネス論

高田さんが考えるカッコいいトップ。

40代は自分が前線に立ち、細かい仕事まで全て自分が関わらないと気が済みませんでしたが、50代を経て、60代になろうとする今、「人を育てる」ことこそトップの責任だと思えるようになりました。優秀な社員が育てば、その人たちが盛り上げてくれる。自分はトップとして「方向性を示すこと」。社員たちみんなが自ら考え、それぞれに動き、好きなことをしている、けれどもどこかで1つに繋がっている。そんな彼らを見渡すトップ。こんなスタイルが、カッコいいかなと。また、私の経験から、甲南の現役学生のみならず、ひとこと、勉学はもちろん、遊びも一生懸命すること。自分と価値観が違う人とは積極的に交流を深めること。後々その良い経験が生きてくると思いますよ。

# なるほど！ 甲南 アカデミア

先生、  
知の最前線を  
教えてください

毎日の意識を変えることも大切！  
でも、社会の仕組みを変えることが、もっと大切！



法学部  
久保はるか 准教授  
1996年一橋大学法学部卒業、  
2001年東京大学大学院  
法学政治学専攻単位取得満期退学。博士(法学)。  
2006年より現職。専門は、行政学。

## 「政策」から、 「まちづくり」から、 環境問題の解決に挑む。

ある高校生の少女が環境問題について考える機会がありました。「自分には何が出来るだろう？」使わない電気は消すよう努める。家族で出かけるとき、マイカーは控えて、できるだけバスや電車を使うように言う。確かに個人個人が小さな取り組みを重ねることは必要だ。でも、問題解決には遥か遠く及ばない気がする。そうだ！社会の仕組みを大きく変えることができる法律や政治を学ばないかもしれない。少女は、そうした思いから、大学へ進学するとき法学部を選び、その後甲南大学の教員になりました。法学部久保はるか准教授が教員を志したきっかけです。

今回は、久保准教授が政策や社会基盤といった、少し大きな視点から環境問題についてレクチャーするとともに、教育への思いをお話します。

組みを国内でどうやって実践していくかがとても大切であり、そのプロセスを分析することが私の研究テーマでもあります。

**無理せず、意識せず、  
温暖化対策につながる社会へ。**

温暖化問題が難しいのは、事業者から生活者まで、その対象が広いこと。また、オゾン層保護の問題のように、「フロンガスを抑えれば解決につながる」といった規制的な方法をとることもできず、ガス排出をゼロにすることも困難だからです。京都議定書を受けて、国内では「地球温暖化対策推進法」といった法律をつくり、排出量の多い事業者には、自主行動計画を策定して排出を抑えるよう促しています。一方、年々排出量が増える一般の家庭に対しては今のところ、「エコな生活」を啓発するしか手立てがありません。しかし、生活意識を変えさせて、行動を変えさせるのは至難のわざ。そのためには、無理しなくとも、意識しなくとも、自然と温暖化対策につながるような社会基盤づくりが重要になってきます。公共交通を便利にする。今注目されている次世代路面電車(LRT)を導入する。クルマが不可欠な郊外型の街づくりを見直し※コンパクトシティにする。など、本来の意味での低炭素社会をつくる必要があるのです。現在議論されている「環境税の導入」も、エコなライフスタイルを後押しするだけでなく、こうしたインフラを整備する財源にもなるため、解決の一助となるはず。また、私は現在、自治体レベルでの温暖化対策についても研究しています。原子力発電や火力発電などの大規模な発電所に頼らず、地域で使うエネルギーを風力や太陽光発電などの「自然・再生可能エネルギー」に変えていくという取り組みがその一例です。このように事業者にも身近である地域の自治体は、いろいろな対策が講じやすいため、今後環境問題を解決する糸口になりうると思っています。

※コンパクトシティ…住みやすさを考え、市街地のスケールを小さく保ち、歩いてゆける範囲を生活圏と捉えつくり再生されたりしたまち及びコンパクトシティ。

**国際的な条約を結ぶだけでなく、  
国内でどう実践していくかが大切。**

みなさん、「京都議定書」ってご存知ですか？京都議定書は、温室効果ガス(以下「ガス」といふ)排出量削減にむけて、先進国が具体的な目標を定めた国際的な取り決めです。この「京都議定書」で、日本は、2012年までに、温室効果ガスを1990年比6%削減することを世界に約束しました。2012年までにこの目標を達成できるか？ということも、2012年以降のルールをどうするか？これが、現在環境問題において注目されているテーマです。そして、2009年12月、ポスト京都議定書のルールを決める国際会議(COP15)がデンマークの首都コペンハーゲンで開かれました。ちょうどこの「甲南Today」が出る頃には、その会議で決められた内容が報道されているでしょうから、また新聞等でご確認ください。

しかし、こうした条約も、ただ締結するだけでは結果につながりません。この条約で結んだ具体的な取り決めは、大学内だけで勉強しているのとはもったいない。世の中の問題に関心を持っていない学生も多いなか、身近な地域との関わりの中から、社会にもっと眼を向けてほしいですね。そして、ひとりの市民として行動する姿勢も大切にしてほしいと思っています。一方で、世の中の仕組みを変えるには、新しい政策を作るあるいは既存の政策を変えていく必要があります。「ひとりの市民として考える視点」とともに、「社会」という大きな枠組みから考える視点」を持ち、その両輪を大切に学んでほしいと思います。そして、この2つの視点こそ、今後環境問題の解決にも必要な視点ではないでしょうか。

※フードマイレージ…食べ物生産地から消費される食卓までの輸送に要した「距離×重量」を表したもので、距離が遠くなるほど輸送時にCO<sub>2</sub>や大気汚染物質が大量に排出されることになる。食べることと環境の影響とのなかりをわかりやすくする考え方。



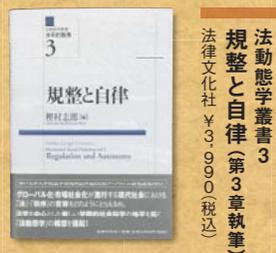
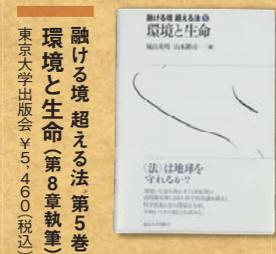
**「ひとりの市民として考える視点」と、  
「社会」という枠組みから考える視点」。**

学生たちの「環境」に対する意識を高めるために、私なりの工夫をしています。たとえば、最近ゼミで「フードマイレージ」を取り上げました。学生を4〜5名ずつのグループに分けて、グループごとに食材のカードを配り、夕食の献立を考えてもらいます。使用した食材から献立ごとのフードマイレージを算出したのですが、学生たちはお互い相談し合いながら楽しそうに取り組んでましたね。また「環境」というテーマをもう少し広くとらえると、「まちづくり」にもつながります。同じくゼミで、学生たちに甲南大学周辺地域のまちづくりについて勉強してもらっています。自らの街に誇りを持ち、活力ある住民の方が多い甲南大学周辺エリアは、まちづくりを学ぶ対象としては

**「未来世代」のために「母として」**

高校生のときに芽生えた環境問題への関心を持ち続けて大学の教員になったわけですが、現在一人の子どもの母となり、より強く「環境を守っていかねばいけない」と思うようになりました。自分たちの快適さはかりを追求したために環境が破壊され、未来の人たちが幸せに過ごせなくなっていくくないと。知識だけでなくこの思いも学生たちに伝えていきたいですね。

### 久保准教授の 著書



近刊

ともに日本国内におけるオゾン層保護の政策プロセスを分析した。

自治体の温暖化対策を分析した。



事故で亡くなった息子の代わりに  
甲南大学へ入学。  
親と子。どちらの気持ちも大切です。

### 川畑 恵子さん

甲南大学 キャリアセンター事務室

2007年3月甲南大学経済学部卒業。結婚・出産後、専業主婦として一男一女の子育てに専念。その後、子育てが一段落したことをきっかけに仕事を再開するも、長男が事故で急逝したことから人生が一転。長男の代わりに卒業証書を取得するため2003年甲南大学経済学部へ入学。卒業後、2007年より甲南大学キャリアセンターで業務委託として学生の就職相談業務を担当、2009年4月より嘱託職員となり、現在に至る。



人生を5  
「やわらかい目標」を立てています。  
テーマは“しなやかな女性”。

### Memeさん

DJ・オーガニックドーナツショップ経営

1992年甲南大学経営学部卒業。中国語・英語・日本語を話すトリリンガルDJとして現在ラジオなどで活躍中。一方で、安心して子どもたちにおやつをたべさせたいと思ったのがきっかけで、オーガニックドーナツショップ「フロresta神戸トアロード」店をはじめ2店舗を展開している。プライベートでは、7歳と5歳の男の子2人の母。

● Memeさんがナビゲートする番組がオンエア中！  
FM COCOLO「BAYSIDE WINDS」(毎週月・火/午後1時~4時)、  
ラジオ関西「ママナビゲーション」(毎週日/午後4時~5時)



何事もとりあえずチャレンジしています。  
やらないで後悔するより、  
やって後悔する方がいいから。

### 生友 夏代さん

英語教室指導者・英語ボランティア講師

1983年甲南大学文学部卒業。結婚後「息子の英語の勉強を見てほしい」とご近所から依頼を受けたことがはじまりで、自宅付近の子どもたちのために英語教室を開設。その後小学校より依頼を受け、ボランティアでの英語指導をはじめ。現在は地元三木市の幼稚園で園児たちに月2回英語を教えている。市内の幼稚園で継続して英語を指導する唯一のボランティアとして、2009年6月神戸新聞で紹介される。20歳の息子と17歳の娘がいる。

# しなやかにたくましく 生きる女性たち

自分を、家族を、  
まわりを元気にする  
甲南OG  
たち

人生に何度か訪れる“巡り逢い”。それは、人との素敵な出会いであったり、ときに悲しい出来事かもしれない。

このコーナーでは、そんな“巡り逢い”をチャンスに変え、さらに輝きを放つ甲南OGたちをご紹介します。

彼女たちの共通項は、“母親”であること。3名とも、たくましくエネルギー。

しかし、力みすぎることなく、しなやかで自然体です。その“ひみつ”は一体何なのでしょう…?

「子どもを育てている」より、  
「自分が育ててもらっている」。

**Meme** 今日は、子育ての先輩であるお二人にお会いするのを楽しみにしていました。私は、子育てに、仕事に、毎日が24時間コンビニ営業のような忙しさなんです。でも、子どもと過ごせる時間はあっという間だと先輩ママたちから聞いているので、子育てしている今を大切にしたいなと思っています。お二人はどうでしたか？

**生友** 本当にあっという間でしたよ。小さいときは「早く大きくなってくれ」と思っていたんですが、手間がかからなくなるとちょっと寂しい気持ちも…。先日うちの息子が晴れて家を出て独立したときも、本来は喜ぶべきなのですが、ちょっと複雑な気持ちになりました。

**川畑** 私もまったく同じ。必死だったけど、今思えば楽しい思い出ですね。  
**Meme** やっぱり、そうなんです。あと、子育てを経験されて、ご自分がどう変わったかというようなことはありますか？私は子どもを持って、喜怒哀楽のすべての感情が深くなったような…。「はじめてのおつかい」というテレビ番組がありますよね。独身当時は、あまり面白いと思ってもなかったのですが、今見ると最初から最後までずっと泣いてしまってた。そんな自分の変化に驚いてるんです。

**川畑** 私の場合、子育てに関しては、ずっと「子どもを育てている」という感じはなく、「私自身が育てられた」という感じなんですよね。

**生友** 私は、自分の気持ちを押しつけ、思いどおりに動かそうとしてしまったところもあったなと反省することがありました。でも、英語を通じて、自分の子ども以外の多くの子たちと出会ったことで、わが子の個性

を認めてあげられるようになりましたね。そういう子育ての苦い経験もふまえて、英語教室にいらっしやる若いお母さん方を応援したいなと思っています。

**Meme** 私も、子育てで得た経験から世の中のママたちに何か発信できないかと思つて、「Memeのママの輪」という、子育ての不安や悩みをリスナーの方とともに解決するラジオのコーナーを始め、今も続けています。そこで得られたたくさんママたちとの世代を超えたつながりは大きな財産になっています。川畑さんは、子育てを通じてご自身に何か変化がありましたか？

**川畑** 私の場合は、甲南大学生だった長男を交通事故で亡くしたという悲しい経験がありました…。私が甲南大学に入学したのは、それがきっかけなんです。私、どうしても息子が大学で学んだ証として卒業証書が欲しくて、でも、卒業せずして亡くなってしまったので、もらえなかったんですよ。なら、子どもに代わって私が取るうち。ちょうど、社会人入試の制度を知り、受験1カ月前に、ゼロから英語、経済論文、口頭試験のための受験勉強を始めました。経済学部を受験したので、経済に関する本を30冊くらい買い込み、勉強しました。一生のうちで、あんなに勉強したことはありません。

**生友** それはすごいですね！

**川畑** 晴れて入学できましたが、朝晩に着くと息子と同じような学生がたくさんいる訳です。でも、うちの息子は…。つらくて涙が止まらず、サンングラスで隠して登校していました。でも、周りの学生や先生から励まされるような言葉をかけてもらって「泣いてばかりいられない！」と。あるときから泣かなくなりました。それに、卒業証書ももらうことが目的ですから、クヨクヨしていられないという思いもあって。

番前の席で必死に講義を聴きました。英語のプレゼンテーション、体育の50m走やバスケットボールまで10代の学生さんとまったく同じことをやるんですよ！私、社会人入試に入ったから、免除されることがあると思つたのに(笑)。でも、おかげで総代で卒業しちゃいました。  
**Meme/生友** すごい！  
**川畑** 子どもと同じ年頃の同級生に「ケイちゃん」と呼ばれて、友だちもいっぱい。メル友も多くて、お風呂にまで携帯を持って入るくらいです。まだ、片手でしか打てないけど、めざすは両手打ちです(笑)。

**Meme** うわあ、若い！(笑)。今は大学のキャリアセンターで働かれていますよね？母であり、最近まで大学生だったおかげで学生の感覚も分かる川畑さんに進路のアドバイスしてもらえるのは、学生にとつて心強いですね。  
**川畑** キャリアセンターのお仕事をすすめてくださったのは当時の学長なんです。それが狙いだったみたいです。就職活動で、親の意見と食い違って辛い思いをする学生も多いんです。親の時代の就職活動と今が違うことが分かると同時に、私も母ですから親が子どもに期待する感覚もわかります。そんなときは、「ゴメンね」と思うんです。で、その気持ちを学生に伝えてあげられるみたいで。後日、卒業式などで親御さんと一緒にお礼を言いに来てくださることもあります。

新しい人生のはじまりは、  
突然「降ってくる感じ」。

**Meme** うちの子はまだ7歳と5歳の男の子なので家にモンスターがいる感じなんです(笑)。2人だけでも大変。頭ごなしに



拾芳会員宅を訪れ庭でつづぐ平生鈞三郎 (昭和初期・西宮市内で)  
\*当ページ制作にご協力いただいている浜田さんご提供

# 甲南学園の歴史と文化

をつくった人々 最終回

主に旧制甲南高等学校卒業生を「紹介してきたこのコーナーは、今回が最終回とさせていただきます。タイトルの趣旨から申しあげれば、学園創立者で、「貫教育」と、人格養成を「甲南学園建学の精神」とした、平生鈞三郎先生を初回にご紹介し、その後甲南教育の成果を世間に示した卒業生のお話を連載するのが本筋でした。順序が逆となりませんが、3年間10回目、締めは『平生教育の重点・人格養成』の根拠説明です。なお、旧制卒で「紹介をさせていただかなかった方がいらっしゃいますが、お許しください。」

## “人格養成”を重視した学園創立者生活 唱えるに相応(ふさわ)しかった日常生活

◆仁川海関(現・韓国の税関)勤務の26歳のとき、輸入手続きなしで絹物を詰めた荷物5個を持つ婦人を見つけたところ、その人は平生が下宿していた呉服屋の主。しかし、哀願を蹴、当時で3千円余りの品を没収。市民は「公平無私な人だ」と敬意を持ちました。

◆兵庫県立商業の校長だった28歳のとき、留守中の自宅に同郷の人が魚を手土産に訪れ、家人が受け取りました。帰宅した平生は「教科書販売会社の売込みだ」と見抜き、すでに調理されていたのと同じ魚を買って返却。後にこの会社員の行為が教科書疑獄事件に発展。教育者多数が摘発されたとき、平生は無関係でした。

◆不正に妥協せず  
『徳』は心構えが正しく、思いやり・感謝の気持ち、助け合う「心」が備わっていること。『徳・体・知』に順番はなく、知育に全力を込め、徳育、体育も同じ力点で学生の付加価値を高めるのです。人格養成を建学精神に含めるには、経営者や教師は、自らがその模範でなければならぬのは当然でしょう。平生の一生は、数々の行為がそれを立証していました。本人は特別な行動をしたのではなく、日常の自然な行為が、周囲から見れば模範になっていたのです。以下に数例を列記します。

◆平生鈞三郎氏  
「徳」は心構えが正しく、思いやり・感謝の気持ち、助け合う「心」が備わっていること。『徳・体・知』に順番はなく、知育に全力を込め、徳育、体育も同じ力点で学生の付加価値を高めるのです。人格養成を建学精神に含めるには、経営者や教師は、自らがその模範でなければならぬのは当然でしょう。平生の一生は、数々の行為がそれを立証していました。本人は特別な行動をしたのではなく、日常の自然な行為が、周囲から見れば模範になっていたのです。以下に数例を列記します。

◆最終回にあたり協力者から  
平生鈞三郎先生の「生きざま」は、現代に生きる私たちが見習うところが非常に多いと思っています。その人が提唱した教育方針だから、甲南の教育には価値があるのではないのでしょうか。甲南学園に勤める教職員の方たちは、平生精神に共感し、日々働かれる場で自ら実践されていることでしょうか、特に「人格養成」を強く意識し、生徒、学生の意識をどんどん高めていっていただくことを要望しています。平生先生も生前、いつも教職員に、それを「お願い」していました。たとえば、服装ひとつとっても学ぶ心構えを反映するものであっていただきたい。人生の先輩である先生方から知識や技を学ぶ場への通学スタイルは、行楽地や遊技場へ行くそれとは異なるものであると思うのです。かつての甲南生は、何ともいえない品のある服装をしていました。キャンパスを闊歩する先輩たちは「ダンディーだ」とあこがれられたものです。教職員の方は、あらためて創立者平生先生の素晴らしい姿を学生たちに伝える努力・工夫をし、学園全体で甲南の伝統を守り育てていただきたいとの願いを含め、平生先生の64回忌にあたり3年間続いた「甲南学園の歴史と文化をつくった人々」を締めくくります。

◆多額の富や世間体は不要  
◆47歳のとき、私費で返済無用の育英事業として始めた拾芳会(前号2頁をご参照ください)が、昭和14年財団法人認可を受ける際、基本財産として長年住み慣れた自宅(現在の平生記念館の地)を無償で提供。所有権を手放した後、東京に転宅するまでの5年間も、自宅なのに家賃を払って住みました。育英事業は、甲南高校でも昭和13年に私費10万円を元本はじめ、没後まで続けました。◆東京海上専務のときは役員賞与が多いと削って社員に配分、兼務の大正海上でも賞与を社員の厚生費に寄付しました。平生は、当時の三大財閥の子会社、三菱系東京海上、三井系大正海上、住友系扶桑海上役員を同時兼務した稀有の人。競争会社も信用・尊敬した証です。

◆川崎造船経営再建の3年間は社長報酬を辞退、退職金は同社の関係学校等に寄付。甲南でも前後3回の校長就任時は、給与を辞退しています。◆「遺産相続廃止」を提唱していた平生は生前、家族への遺留分以外の全額を、甲南各校と出身校へ寄付しました。(文中、敬称略)

怒りたくなることもしょうゆゆうですが、そんなときは深呼吸して、「ちょっと待って!」って自分に言い聞かせてから子どもに接するようにしています。生友さん、幼稚園や小学校でたくさんの子どものために英語を教えるって大変じゃないですか?  
生友 エネルギを吸い取られますね(笑)。ただ知識を覚えさせるより、歌やゲームを取り入れて体を使って学べるようにしているのが、体力を温存して臨んでます。でも、うちの子にもこんな時期があったなと懐かしい気持ちになって純粹に楽しんでます。子どもは体ごと覚えようとするから吸収力がすごいんですよ。そんな子どもたちと一緒にいると、新しいパワーももらえます。でもね、毎回緊張の連続です。私と勉強することが、英語とはじめての出会いになる子どもも多いので、「英語って楽しい」と絶対思っしてほしいです。  
川畑 そもそも、英語のボランティアはどういうきっかけで始められたのですか?  
生友 7、8年前、息子と娘が通っていた小学校から英語のゲストティーチャーを依頼されたんです。自宅で英語を教えている噂を聞いて、先生が声をかけてくださって、「どうやって断ろうか」と思ってたんですが、やってみたら向こうから断ってくるだろうと(笑)。そう思い、ひとまずお受けすることにしました。「すべてお任せします」と言われて、準備もとても大変だったので、子どもたちから「楽しかった」という手紙をもらって感激して、もがきながらも1人でやり遂げた達成感もありました。  
Meme 生友さんのお話からも、私自身の経験からも感じるのですが、何か自分が「降ってきた」時にキヤッチする行動力と決断力、フットワークの軽さって大事だと思っんです。私が店を始めたのも、たまたま食べたドーナツのあきのこない、やさしい

味に惚れ込んだのがきっかけでした。素材がしっかりしていて安心して子どもたちに食べさせてあげられることもあって、すぐに「やろう」と決め、4カ月後にはドーナツショップをオープンしていたんです。自分でも不思議なんですが、まさに何かが降ってきた感じでした。  
川畑 素早いんですね!「降ってくる感じ」というのは、すごくよくわかりますよ。私も甲南大学を卒業するとき、「これから自分は何をするんだろう」と思っていたんです。実際、いろいろなお仕事の依頼もいただいたのですが、「何か違う」と。そんなときに、キャリアセンターからお声をかけていただいた。私は一般企業で教育係や査定業務を担当し、さまざまな立場の方と、「対一」でしっかり話す経験を積んできたので、それが生かせるかなと。「私はこれ待っていたんだ!!」と直感しました。  
Meme 後で良く考えると、そういうときには、「人や情報」との運命的な出会いがありますね、パズルがうまくはまってしまう。私もちょうどタイミングよくシヨップ運営に必要なビジネスパートナーが見つかった。  
生友 きっと、必死に探すわけではないけど、見えないアンテナが立っている感じなんじゃないかな。  
甲南といえば、大らかさ、バランスの良さが魅力。  
Meme みなさんの甲南時代のお話も聞きたいですね。  
生友 甲南での4年間は本当に楽しかったです。育った環境も、年齢も違ういろいろな人と出会って、狭かった視野が広がりました。甲南には、どんな個性も認めてくれる大らかさや寛容な雰囲気があったなと

思います。  
川畑 甲南大学は、息子と私の母校であると同時に今は職場になり、ご縁を感じますね。私自身も甲南が大好きです!他の卒業生の方を見ると、みなさん学生時代を誇りに思っていてネットワークがすごく強い。甲南ブランドってすごいなあと思います。私が接した学生さんたちにも甲南を愛してもらえよう、仕事していきたくて思っています。  
Meme 私の場合、甲南大学時代のお友だちとは今でも家族ぐるみでお付き合いしているんですよ。老荘思想のなかで「上善如水」という言葉があつて、これは私がめざす人物像なのですが、まさに甲南大学の学生にもあてはまると思います。水のようにならぬ強い意志、下へ下へと向かう謙虚さ、そしてどんなカタチにもなる柔軟さ。そんなバランス感覚の優れた人が、甲南の人だと思っんです。これからもそんなところは受け継いでいってほしいですね。  
生友 私は、「周りの人々に自分がどんなことを期待されているのかを感じて、それに応えていくことも大切にしてほしい」ということをお伝えしたいですね。もちろん、自分がやりたいことを追求するのも大切ですよ。いずれにしても、迷うならやってみること。やらないで後悔するよりやって後悔する方がいい。いろいろなところに出て、たくさんの方の風にあたりてください。拙い経験からですが、心からそう思います。  
川畑 そうですね。「降ってくる感じ」、直感も大切に挑戦してほしいです。どんな経験や出会いも自分にとってマイナスにはならないですものね。私たちにもこれから先、まだまだ何か降ってくるでしょうから、それを楽しみにしたいです。  
Meme 私は5年ごとに漠然とした「やわらかい目標」があつて、40代は「しなやか



# 大学進学のための先を見据えた、甲南学園の中高一貫教育。

目標を確立する「**応用期間**」と目標へと進む「**発展期間**」。

本誌前号の当コーナーでは、甲南高等学校・中学校の貫教育における「基礎期間」についてお伝えしました。今回は、その次のステップとなる「応用期間」「発展期間」をクローズアップします。

基礎期間  
中学1年 中学2年  
普通コース basic

一人ひとりを大切にした  
きめ細やかな学習・生活指導

甲南高等学校・中学校は、人物を育成する真の教育をめざしています。6年間を3つのステージに分け、それぞれの段階で明確な教育テーマを設けた独自の中高貫教育を展開。それは、生徒が自分の個性を見極めながら将来へと進める細やかな柔軟なグランドデザインです。甲南が大切にしているのは、自分から学び、学ぶ喜びを自ら体験すること。それがさらなる学びへのモチベーションを高め、目標へ向かう力となります。そのため生徒が描く将来のビジョン実現に向け実際に参加して刺激をうける体験型の学びや、生徒がますます自身の興味を深めることができるような甲南らしいプログラムを実施します。大学進学をゴールとせず、生徒の未来を見据え指導すること、これこそ、甲南高等学校・中学校がめざす教育なのです。

## 個々の個性・適性みつけのサポート

応用期間  
中学3年 高校1年

文理コース  
challenge

普通コース  
general

自分の個性や適性を見極め、目標を明確にする**応用期間**。

生徒全員がベーシックコースで学ぶ「基礎期間」を経て、生徒一人ひとりの個性や適性を引き出す次のステップが「**応用期間**」です。この期間は、「普通コース」と「文理コース」の2つのコースがあり、生徒は自身の目標に合ったコースで学びます。しかし、応用期間で学ぶ中3・高1という時期は、まだまだ精神的に幼く、進路に迷いがあるもの。また、本人に目標があったとしても、保護者の意向である場合も多く、本当に自分に合った進路を決めるためには、もう少し深く自分を知る必要があります。そのため、この**応用期間**では、コースの変更を認めるなど、柔軟な対応ができるようになっています。例えば、普通コースの生徒が、理数系への興味が高まり転向するケースや、逆に文理コースで学んだ生徒が異文化交流に関心を持ち転向するケースがあるなど、生徒がじっくりと時間をかけて自分を知らるために、コースの変更を認めているのです。また、将来への職業観を養うキャリア教育も行うなど、生徒が自身の個性や適性を見極め、次の「**発展期間**」で目標へと向かうための学びを展開しています。

## 将来のビジョンと職業観を養うプログラム

OBワークショップ

ここが甲南学園らしさ

「キャリアリサーチ」の一環として、多彩な分野で活躍するOBを10数名招き、甲南時代のことや仕事の内容についてフランクに話していただきます。生徒にとっては、**家族以外の社会人と触れあい、社会とのつながりを意識する刺激的な機会**となっています。話を聞くだけでなく、疑問や質問を投げかけるなど、甲南学園らしい、自主性を養う双方向型の授業です。

●OBワークショップ講師一覧  
(1学期より抜粋)

- 山下英久(山下総合法律事務所)、
- 銭高久善(銭高組)、山本亮(電通)、
- 山本東矢(小学校教師)、富永憲(阪急電鉄)、
- 磯部和男(三井住友銀行)、浜田浩一郎(宮地病院)、
- 仲野博文(ラジオパーソナリティ)

キャリアリサーチ

自分の将来や興味のある職業について、情報を収集し、レポートを作成。さらに、人前でプレゼンテーションを行うなど、自主的な学びを行います。将来に向けての適性を知るだけでなく、様々な職業を知り、働くことの意味についても理解を深めます。



OBワークショップの様子

## ニーズに応じた学習と個性の伸長

発展期間  
高校2年 高校3年

理数コース  
science

文Ⅱコース  
ambitious

文Ⅰコース  
main stream

学びへの意欲を高め、目標へと進む**発展期間**。

応用期間を経て成長し、確かな目標を見つけた生徒たちは、この**発展期間**で3つのコースに分かれて学びます。甲南大学への進学をめざした「**文Ⅰコース**」、国立文系進学をめざした「**文Ⅱコース**」、そして国立公立医歯薬理工系進学を目標とする「**理数コース**」の3つのコースを選択、それぞれの目標に合わせて学習します。各コースには以下のような特徴的なプログラムを設けています。文Ⅰコースでは、文理のバランスのとれたカリキュラムをベースに、国際教育に力を入れ、クラスを2分割して行う少人数英語教育や異文化交流プログラム「グローバルスタディ・プログラム」を実施。文Ⅱコースではセンター試験を視野に入れた受験対応のカリキュラムや、自分の長所を伸ばし、短所を補う「自由選択科目」を設定。理数コースでは、実験や観察に重点を置いた体験的な学び「特別実験研究」を取り入れたカリキュラムで、科学的探求心と考察力を養います。このように、**発展期間**では応用期間で広がった生徒の可能性を、実現へと導く学びを展開しています。

## 学びを深め目標へと向かうプログラム

ここが甲南学園らしさ

グローバルスタディ・プログラム

2010年からスタートする、文Ⅰコースの生徒を対象とした海外留学プログラムです。発展期間の2年間は3つのステージからなり、ステージ1は高2の1・2学期で留学を視野に入れた英語力を身につけます。ステージ2となる高2の3学期は、3カ月間、海外の現地の高校やインターナショナルスクールで過ごします。そして、ステージ3へと移った高3では、1年間を通じて、留学経験を生かした学習を行います。レベルの高い授業で英語能力を高めるだけでなく、「**言語技術教育**」「**異文化交流史**」「**国際政治・経済**」など内容教科と連携し、**国際問題への意識を高め、「世界に通用する紳士たれ」という平生精神を体感していきます。**

E-Study

国際、環境、経済、経営、法律、社会問題といったカテゴリから、興味のあるテーマを選び、研究に取り組みます。**文献や資料だけに頼らず、フィールドワークで現地を訪れ、実際に取材や調査にも挑戦。**このように、自分で調べることの楽しさを認識し、さらに新しい学びや自分の目標に向かう意欲を育てます。



特別実験研究

理数コースで学ぶ高2の生徒を対象に、これから**理数系のどの専門領域に進みたいかを探る体験型の授業を、甲南大学と連携**しながら行います。物理、化学、生物、地学、数学、情報といった分野から、興味・関心のある領域を選び、夏休みの1週間を使って実験や調査に参加します。学生にとって、大学での学びの目標が明確になるだけでなく、**理数系の学びに必要な、ひとつのことを集中して学ぶ忍耐力や辛抱強さを養うことができます。**



高大連携講座

甲南大学と連携し、各学部の専門教育につながる大学レベルの学びを体験します。各専門領域の大学スタッフが、ユニークな例え話を交えながら、高校生の関心を高める講義を行います。**高校時代から大学の学びを体験することで、大学進学へのモチベーションが高まります。**



明確な目標を持った大学以降の学びへ

● 今回は、特徴的な甲南高等学校・中学校の教育プログラムにスポットをあてた特集を行う予定です。



# フランス甲南学園トゥレーヌだより

## Actualités du Lycée-Collège KONAN de Touraine-France



### おもしろくて短すぎ!?! フランスの高校との交換留学(受入れ編)

19才で高校の三年生です。私のしゅみは音楽を聞く事やピアノをひく事です。三年前から、日本語を勉強し始めました。将来に、通訳者になりたいので、大学で日本語を勉強しつづけるでしょう。今、日本の文化の分かるのは、よいですね。リセ甲南に三回も来ています。いつも本当におもしろくて、短過ぎですよ。「きびしい高校ですけども、やさしくてにぎやかな高校です」と思います。

左記は、交換留学で受入れたカミーユ・クロードル高校3年生エヌ・バンジャン君のコメントです。ちょっとたどたどしい表現もありますが、彼自身が漢字も交えて日本語で書いてくれたもの。フランスには彼のように日本に興味を持ち、日本語の勉強をしている高校生が多くいることに驚かされます。本校はそんな高校生たちがいる現地校と交換留学を行っています。現在は、2007年度から交

換留学を開始したパリ近郊のカミーユ・クロードル高校(Lycée Camille Claudel)を皮切りに、マルセイユのオノレドゥーミエ高校(Lycée Honoré Daumier)、ボルドーのフランソワ・マジランディエ高校(Lycée François Magendie)の3校と交換留学を行っています。

交換留学に参加する生徒は、原則として各校12名(女子6名、男子6名)で、相互に1週間の特別プログラムを用意します。本校では、フランス人留学生が「日本語」や「日本史」、「日本の文化」など計10時間の特別授業を受け、これ以外に、フランス語や英語、体育の授業を日本人コレスポンドン・コレスポンドント(パートナー)と一緒に受講します。また、放課後や週末には地元観光や遠足などのアクティビティを楽しみ、夜には遅くまで日仏語を交えて語らう姿が見られます。受入れは、体育祭や文化祭、新年会などの大きな行事の期間中に行い、フランス人高校生たちと協力して各行事を準備・開催するのも、この交換留学の大きな特徴になっています。今回は、先日行われたカミーユ・クロードル高校生受入れについて紹介しましょう。

#### 異文化交流を通じて、友情が芽生えるほどに成長する本校生徒たち。

今回で3回目となるカミーユ・クロードル高校生の受入れは、10月18日(日)~25日(日)の日程で行いました。受入れをした生徒は、全員が日本に強い関心を持ち、日本語を学んでいます。また、中には昨年来校した生徒もいましたが、しばらくは両校生がぎこちなく過ごしていました。フランス人にとっては学校や寮のスケジュールに合わせて全体行動すること、本校生にとっては外国語を使ってコミュニケーションすることの難しさを感じる数日です。今回は週の最後に文化祭があり、準備で忙しい中で留学生の面倒を見ることを負担に感じる生徒もいましたが、1週間が経つ頃にはお互いに友情が芽生え、離れがたくなります。最終日前夜には本校生の主催でお別れパーティーが開催され、お菓子やジュースを持ち寄り、一緒にお好み焼きを作ったり、日仏生合同のグループにわかれてジェスチャーゲームを楽しんだりしながら、生徒たちは就寝時間ぎりぎりまで別れを惜しんでいました。

本校には、さまざまな国際交流活動がありますが、生徒が実際に同世代のフランス人と共に生活し、同じ目線で考えることを通じて、お互いを理解しさまざまなことを感じ学んでいく、これこそが交換留学の最大の意義だと思います。この経験を糧に、それぞれの生徒たちが豊かな国際感覚を身につけるとともに、ここで出会った生徒たちが貴重な友となり、日仏両国の関係を一層深めてくれることを願っています。

#### コミュニケーションで大切なのは、「仲良くなりたい」という気持ち

高等部2年 畔柳絵里

わたしは今回の短期留学に参加してとても楽しかったし、フランス人と共に過ごすことでたくさんことを学びました。その反面、反省する点もあります。それははじめのうちコレスポンドンと積極的に関わらなかったことです。文化祭期間中で忙しかったせいもあるし、何より初めての交換留学でどうすればよいかかわからず時間だけが過ぎていきました。しかし、このままではいけないと思い、お互いにわからないフランス語や日本語があれば英語やジェスチャーを交えて話したりして、自分なりに貴重な機会を生かせるよう努力しました。そのうち徐々にお互いの気持ちが通じ合うようになり、その後はとても楽しく充実した時間を過ごすことができました。この留学で学んだことは、コミュニケーションをとる上で大切なのは気持ちだということです。自分から仲良くなり、相手のことをもっと知りたと思わなければ行動に移すこともできません。わたしは今回その気持ちが欠けていたような気がします。次の機会では、この反省を生かしてさらに意味のあるものにしたいと思います。

#### 言語の壁を超えて分かり合う

高等部2年 加藤翔

今回のわたしのコレスポンドンのムハマドゥは国籍や外見が違うということだけで、わたしは何も変わりませんでした。ただ一つ違いを挙げるとしたら、コミュニケーションの手段である言語です。しかし、今回はお互いの言語を学び合うために、彼は日本語で話し、わたしはフランス語で話しました。彼がわからない日本語があったり、間違えていたりするとわたしが教えます。反対に、わたしがフランス語でわからないところや間違っているところがあると彼に教えてもらいました。この方法はお互いにも勉強になりました。また、授業では一緒にバスケットボールをしました。ここで一つおもしろいことに気づきました。それは、スポーツには言語が必要ないということです。ルールさえ知っていればスポーツは最も簡単に楽しくお互いの距離を縮められる方法だと思っています。



楽しくお別れ会...でも名残惜しい!

# 甲南大学が

## 映画のロケ地に!?

9月12日から約1ヶ月間、私たち甲南生が映画「ふたたび Swing me again」(仮)のスタッフやエキストラとして、映画制作に携わることができました。プロの撮影スタッフに混じりお手伝いしたり、通行人役で出演したりと甲南生が頑張りましたので、ご紹介します。

「ふたたび Swing me again」(仮)は昭和30年代の神戸が舞台の映画。若いジャンマンがインセン病に冒され、療養所に隔離される。後に社会復帰し、バンドを再結成して当時夢見た名門ライブハウスのステージへ再び立ち上るとするストーリー。

### 中軽米一輝 文学部3年次

今回以前から興味があった映画制作にスタッフとして参加させていただき、多くのことを学びました。初めはできることが限られていたけれど、徐々に任せてもらえる仕事も増えていき、毎日わくわくしながら現場に向かっていました。現場では監督をはじめ、制作部・演出部・照明部など多くの人が一つのチームとして動いていて、朝から晩まで映画に打ち込んでいました。映画は「一切の妥協のない人たちの思いが結集した姿なんだと思います。そこから私たちは元気をもらったり、涙をこぼしたり、心が動かされます。映画制作とは、ただ作って終わるのではなく、作品に込められた想いを人の心にまで届け、作る側と見る側が一体となって初めて完成するものなのだと思います。映画制作に少しでも関わることができて、たくさん人の心に響かせる映画制作により一層興味がありました。



Kazuki Nakakarumi

出演者やスタッフに混じって甲南生がバシヤ!(大学ロケ最終日?)



この写真、実際に使用された本物のセットです!

独特の緊張感に少し戸惑う学生(汗)

撮影のウラ側を見て甲南生も大興奮!

### 編集後記

大勢のスタッフや緻密な計算によって行われる撮影、役者さんの迫真の演技など張り詰めた緊張感に圧倒されながらも学生たちは、自分のできることを精一杯行いました。プロの映画スタッフの方々とは接することで、学生と社会人の意識の違いを感じることができました。これからも、普段の学生生活では味わえない体験をする機会が大学全体で増えていってほしいし、自分たちからも積極的に求めていきたいと思っています。



Miyuki Kosuga

### 小菅美幸 文学部3年次

私は幼いときから映画が大好きでした。今までに様々な映画に触れてきて、メイキングなどを見てみるとただ映画を見るだけではなく、自分も制作に関わりたいと思うようになりました。しかし思うだけで、どうすれば自分もそんな世界に入れるのかわかりませんでした。そんな時、今回の映画撮影の学生スタッフ募集の声がかかりました。考える間もなくすぐに「参加します」と返事しました。そして、初日から連日参加し、荷物や機材運び、お茶入れ、食事係などを担当しつつも、ただ頼まれたことをするのはなく、自分でもできることを常に動き回りました。現場では本番中の緊張感、みんなでの作品を作っているという一体感など自分の肌でしっかりと感じました。今回、参加してたくさん学び、たくさん刺激を受けました。そしてこの業界に更に魅力を感じました。この経験を通じて就職活動を頑張っていこうと思っています。



密着!

食堂スタッフの方の一日  
(伊藤さん)

出勤 7:00~  
学生よりも早く出勤



仕込み 8:00~  
早くしないとお腹を空かせた学生が来ちゃう!!



販売 12:00~  
昼休みは大忙し!!



後片付け 14:00~  
後片付けも一苦労...



退勤 15:00~  
やっと作業終了ー!  
今日も一日がんばったわー!!



学生の皆さん、もっと食堂に来てバランスのとれた食事をしてね! おいしいご飯を作ってお待ちしています。

いつもほかほかでおいしいご飯を作っていたらありがとうございます!!

# CUBE



2009年、阪急西宮北口に新設された、甲南CUBE!食堂もきれいでおしゃれな雰囲気が漂っています。生徒がまだ1年次生だけなので、少し寂しい感じもしますが、これからは利用者も増えるので、にぎやかになっていくでしょう!!

- 店内がとてキレイ! (キャンパスができたて!)
- のんびり、くつろげる! (ゴージャスな雰囲気!)
- 食べ物を好きなだけ盛ることのできるフェアがある! (食いしん坊にうれしい!)

ココが  
すごい!!



- 営業時間をもっと長くしてほしい。(お昼の2時に閉まるのはつらい!)
- ドレッシングの種類をもっと増やしてほしい。(ゴマドレ、ケチャップがほしい!)
- 食堂閉店後も使えるウォータークーラーを設置してほしい。

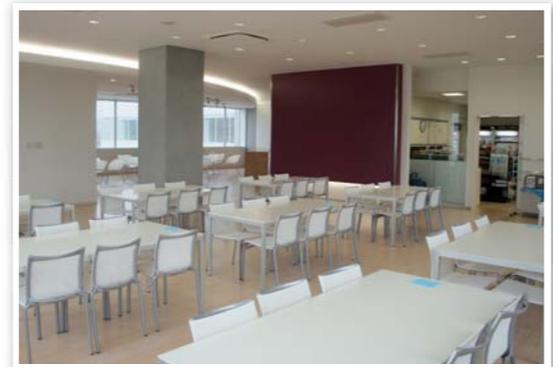
コレがほしい!!



和と洋にわけて提供される日替わりプレート (360円)

# FIRST

2009年、ポートアイランドに新設された、甲南FIRST。研究室が集まっているので、食堂は手軽に食べられるメニューが中心です。席数は約70席で、研究で疲れたら、海を見ながらリフレッシュ!まさに学生・研究生の強い味方となっています。



- 実験室で食べられる! (食べたいときに食べられる!)
- 週替わりでメニューが変わる
- エコ!! (マイコップ持参)
- 定食が食べたい!
- サラダなど健康に気がついたメニューがもっとほしい。
- 実験で遅くなくても、食べられるようにしてほしい。(営業時間を長くして!)

ココがすごい!!



できたて! あったか! 日替わり丼 (350円~)

コレがほしい!!

# ごはんですよ!!

食堂特集

3つのキャンパスの食堂を紹介しながら、学食の人気メニューの中から学生は何を食べているのか?

といったギモンを私たち学生が特捜しました。

また、各食堂の利用者のオススメポイントや要望をインタビューして比較してみました。

取材に参加した学生 / 吉本 聖 (法3) 田上 敦博 (文3) 中村 友梨香 (法3) 鶴田 紗穂 (文1) 鼻野 香菜子 (文1)

# OKAMOTO

岡本キャンパスにある食堂は学生に広く利用されています。友達同士でおかずを交換し合っているいろんな味を楽しむ人、カップルで食事を楽しむ人、留学生とおしゃべりを楽しむ人。学生はそれぞれに食堂の楽しみ方をもっています。



甲南生なら当たり前!? 一番人気の天津飯 (Mサイズ: 310円)



甲南大学★食堂 びくりトリビタ

1 学食人気No.1メニューで ある天津飯は 1日150食分! 毎日完売!! ふわふわ卵と とろとろあんかけがやみつきです!

2 卵1日300個! 主に天津飯などに 賢気に使用されて います。食べられないと

3 食堂で500個 フードコートで500個 なんと! 唐揚げ 1日1000個! 丼が売れ ないので、小腹が空いた時に ちょっとつまみで... 皆大好きな唐揚げです!

4 おみそ汁1日120食! いつもぬくぬく、ほっこりあたたまる 甲南のThe! おぶくろの味を

- 朝も夜も食べられる。(下宿生のミカタ)
- 栄養バランスがいい。(小鉢が充実)
- 限定フェアがある。
- 100円から食事ができる!(おかかうどんが100円!)
- レストランのドリンクバーがうれしい。
- 安い!

ココが  
すごい!!

- 混雑時、席に座れない!(席取りをやめて!)
- 食券機にしてほしい!
- デザートの種類を増やしてほしい!
- テーブルをふくダスターがほしい!
- 食堂のドリンクメニューを増やしてほしい!

コレが  
ほしい!!



● 体育会戦績報告 ● (敬称略)

みなさんのファイトに心より拍手をお送りします

- 【アーチェリー部】  
第32回関西学生アーチェリーワールド選手権大会  
於京都白梅スポーツプラザ  
● 9 / 2 (水) / 3 (木)  
山本 諒文(4) 準優勝
- 第47回関西学生アーチェリー新人戦於藤原野球場(園芸特設レシ)  
● 10 / 18 (日)  
畠山 直樹(知能情報1) 優勝
- 天皇杯第78回日本学生陸上競技対校選手権大会於国立競技場  
● 9 / 4 (金) / 6 (日)  
加藤 美実(文2)・石本 麻衣(文2)・竹内 亜希(営2)・大岡 沙織(文3)・宇佐 4 x 4 0 0 m (レ) 7 位(記録: 3分45秒82)
- 第46回関西学生陸上競技学年別選手権大会於花園第2陸上競技場  
● 10 / 22 (木)  
橋本 奈奈(文3)・友谷 美佳(文1)・大岡 沙織(文3)・三宅 泰緒(香文1)・宇佐 4 x 4 0 0 m (レ) 優勝(記録: 47秒79)

- 【アメリカンフットボール部】  
関西学生アメリカンフットボール秋季リーグ於王子スタジアム  
● 9 / 13 (日)  
21 / 14 で38年ぶりに京都大に勝利
- 【ライフル射撃部】  
第56回秋季全関西学生ライフル射撃選手権大会  
● 9 / 9 (水) / 12 (土)  
有馬 久美子(理工3)・女子10mピストル2位  
山本 真由香(経4)・女子10mエアピストル3位  
女子ヒートピストル団体優勝
- 【ソフト部】  
関西インカレ団体戦於新西宮ヨットハーバー  
● 9 / 21 (祝) / 23 (水) / 祝  
470級5位・スナイプ級3位・総合3位入賞
- 【準硬式野球部】  
近畿六大学準硬式野球秋季リーグ優勝(季連続43回目)



**第45回撰津祭が大盛況のうちに終了しました!**

11月19日・23日まで開催された本年の撰津祭は、昨年比1.5倍の2万7千人の来場者を記録。その理由として、「YOUさん、mihimaru G.T、武幸四郎さんなどの有名人にたくさん来ていただいたこと、甲南大学初のお笑いライブを実施したこと、協賛企業ブースを増やし宣伝活動を充実させたことが効を奏したのかも知れません」と大学祭実務委員長の山田祐太郎さん(法学部3年次)が語ってくださいました。

業生による作品展「サロンドコーナーOB展」が9月22日・27日、西宮市立北口ギャラリーで開催されました。本誌の表紙でおなじみ西井義晃画伯、前号でご紹介した隅原菜穂さん、世界的に活躍されているデザイナー・金田敬治氏をはじめ、36名の方がこの作品展のために創作された絵画・工芸作品が展示され、作品の素晴らしさ、パフエティの豊富さはもちろん、会場は終始和やかな雰囲気になりました。来場者も延べ850名と大盛況。当作品展は今後も2年に一度開催される予定です。また、これを機に美術部OB会(小島安正会長)が正式に発足しました。

\*当作品展開催を機に、美術部ではOBOG情報を収集されています。美術部出身の方は、美術部OB会事務局までお知らせください。電話: 079-81-460552  
本田 佑氏 1965年法学部卒業

アンケート PRESENT

10名様

甲南大学オリジナルラガールカード(スルッとKANSAI対応)

甲南大学オリジナルラガールカード(スルッとKANSAI対応)を10名様にプレゼントいたします。ご希望の方は、同封のアンケートハガキにてお申し込みください。

応募締切 2010年2月10日到着分まで



次号は2010年4月発行予定  
**甲南Today** NO. 35

発行日 / 2009年12月20日  
発行 / 甲南学園広報部  
〒658-8501 神戸市東灘区岡本8丁目9-1  
TEL (078) 431-4341 (代)  
印刷 / 大日本印刷株式会社

甲南大学特別講演会  
**堂島ロールのヒミツ**

あのだんごロールを生んだ、「Mon chouchou」の金花さんが来学!

10月17日(土)甲友会館において講演会「堂島ロールのヒミツ」を開催しました。堂島ロールといえば、行列に並ばないと買えない、日本一売れているロールケーキの呼び声が高い超人気商品です。甲南大学では、その堂島ロールを製造販売する株式会社「Mon chouchou」の金花社長をお招きして、2部構成で堂島ロールの誕生秘話から人気商品に成長するまでのエピソード、店舗を拡大していった過程から今後の業務展開といった興味深いお話を披露いただきました。当日は600名以上の方がお越しください、会場に入っていた足りない方もたくさんいらっしゃいました。深くお詫び申し上げますとともに、当日の様様をレポートさせていただきます。

誕生秘話から失敗談まで、ハラエディ豊かな話題に興味津々。

みなさまの期待を身に受けはじまった講演会。第一部では、金社長がヨーロッパ旅行で見た、お菓子とともにある生活に憧れてモンシユシュを開店したという誕生秘話からスタート。最初の店名が「Cendrillion」(フランス語でシンドレラの意味)だった話や開店から閉店までお店に立ち、閉店後深夜まで飲食店にケーキの配達に回った苦労話など、モンシユシュの知られざる真実をたくさん話してくださり、聴講者の方もとても興味深く聴いていらっしゃいました。

「お客様の期待に応えたい!」堂島ロールを生んだお客様への思い。

続く第二部では、いよいよ堂島ロールの誕生秘話に迫ります。金社長は、期間限定の半額セールを実施したところ売

り切れ状態が続く、遠方からのお客様にお叱りを受けてしまいました。そこで金社長は、スポンジを外側だけを包み、ロールケーキ一つあたりのスポンジ量を削減。その結果、より多く生産できるようになりました。たっぷりのクリームをスポンジで巻いたあの堂島ロールは、計算ではなく、偶然から誕生したという真実を知った会場のみなさんも、相当驚かされていました。製造スタッフ側からは批判的な意見もあったそうですが、「お客様の期待に応え、愛されるお店でありたい」という熱い思いから生まれた金花さんの堂島ロールは、瞬く間に人気を集めることになるのです。

甲南大学の教授が分析! 堂島ロールがヒットする理由。

また第二部では、甲南大学が誇る高龍秀経済学部教授と西村順二経営学部教授の2人が、モンシユシュの経営戦略

を分析するなど、大学らしい味付けをフランス。両教授は、堂島ロールのヒットを「堂島という地名を商品名に加え、そこでしか買えないという希少性を高めたこと」と語ってくださいました。さらに、「ビジネスエリアである堂島は、営業先への手土産など、ビジネスユースが求められる。堂島ロールは崩れにくく、オフィスでも食べやすい。また、あっさりとした味わいが、女性だけでなく男性に受けたことも大きな要因」との分析に会場のお客様も納得。逆に堂島ロールのイメージが強すぎて、ブランドイメージが埋もれているなどの指摘も。聴講者の方からは「楽しく分かりやすく経済学・経営学を学べた」とのご感想をいただきました。

甲南大学の教員と卒業生が執筆した **新刊レビュー**

「動物の多様な生き方」  
さまざまな神経系をもつ動物たち  
神経系の比較生物学  
日下部岳広 他編著 理工学部教授  
共立出版 ¥3,500 (税別)

身近な動物を使った実験1  
日下部岳広 他共著 理工学部教授  
三共出版 ¥1,900 (税別)

卸売流通動態論  
| 中間流通における仕入と販売の取引流動性 |  
西村順二 著 経営学部教授  
千倉書房 ¥3,200 (税別)

バスルの軌跡  
種田沙羅華の課外活動  
機本伸司 著 1979年理工学部卒業  
ハルキ文庫 ¥800 (税別)

中国  
タワトREIKOの  
ビギナースピリチュアル  
ワークブック  
タワトREIKO(本名:伊庭野玲子) 著  
1980年文学部卒業  
書肆侃房 ¥1,500 (税別)